



2026年 6月22日
第225号

JR東労組
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



過去最高収益なのに、ボーナス支給額が昨年より減る！？

まもなく、夏のボーナス（夏季手当）の支給日が近づいてまいりました。現場長等から給与明細を受け取っていると思います。横浜地本情報182号にて「夏のボーナス支給額が下がる」とお伝えしてきましたが、実際皆さんの「支給額」はいかがでしょうか。昨年と比較して増えていますか？減っていますか？ある組合員は、昨年の明細と比較して約61,000円も支給額が



下がっていました。その原因は、扶養手当と住宅等手当（地域額）が基準内賃金に含まれず、職務能力給と業務手当のみとなり、基準額が大幅に減ったことによります。今回の制度変更により、生活より仕事に重点を置かれている手当になっています。

逆転現象！？

支給月数

2025年度 2.8ヵ月 < 2026年度 2.9ヵ月

支給額

2025年度 〇〇万円 > 2026年度 昨年△61,000円

過去最高の収益を計上しておきながら期末手当支給額が減額するのはおかしいと思いませんか？

会社は、過去最高の平均支給額と謳っていますが、過去最高収益を計上しているにも関わらず支給額が減額する社員が出るのはおかしいと思いませんか？全ての社員で安全を築きあげているのであれば、全社員が一律昨年度より支給額が増えるように支給月数を増やすか、夏季一時金を支給すればよかったのではないのでしょうか。

夏のボーナス支給額ちゃんと確認していますか？

今年度の給与明細だけでなく、昨年の給与明細と比較してみてください。支給額が減額して生活が向上していますか？家族の幸福は実現していますか？さらに追い打ちを掛けるように7月の食料品値上げ品目は2,269品とされています。また、会社は「2028年3月期以降も人件費総額が5,000億円を超えない水準でコントロールしていく」と公表しています。いくら職場が努力しても、ベアや期末手当を抑制されかねません。平均支給額が過去最高で満足している親睦会では、生活向上は勝ち取れません。

労働条件が辛い、生活が苦しい、賃金を上げないと厳しいと感じているのであれば、JR東労組に結集して団結力で、勝ち取っていくしか道はありません。

不満があるなら共に声をあげましょう！